

## 教授人事について

長年空席であった歯科薬理学分野担当教授として、平成26年2月1日付で佐伯万騎男先生（前大阪大学大学院歯学研究科講師）が発令されました。

佐伯教授の発令に伴い、歯科基礎移植・再生学分野は歯科薬理学分野に名称変更されました。

## 平成26年度概算要求事項の採択について

平成26年度政府予算案が決定されたことにより、文部科学省より、歯学部分として以下の予算の内示がありました。

### ◇施設整備補助事業

- ・校舎改修（歯学系 E、E'棟）（平成26～27年度2ヶ年国債）

大型改修第3期工事として要求していたものが認められ、約6,000㎡が改修工事に入ります。第3期には講義室、基礎実習室、PBL室、学生ロッカー室のほか、基礎系研究室、共同利用スペースを設ける予定としています。平成26年度中に着工し、27年度に完成を目指します。

### ◇特別経費プロジェクト分

- ・現代社会に対応する実践的口腔医療人育成プログラム ―組織体制整備と質保証に裏付けられた教育改革―（新規事業：平成26～30年度）

概要：超高齢化の進展により国民の新たな歯科医療ニーズが高まっているが、現行の歯学教育は知識偏重教育となっており、歯学教育の高度化は国民の口腔保健向上のために喫緊の課題である。本事業では組織整備、PDCAサイクルによる教育カリキュラムの改変、教育評価方法の開発を行い、現代の国民の歯科口腔保健医療

ニーズに対応できる実践的・高度専門職業人の育成を行う。事業展開を平成26～27年度（第I期）と平成28～30年度（第II期）にわたる。第I期では診療参加型臨床実習の充実及び新たな教育ニーズへの対応を図るために教育・研究体制の整備を行うとともに、PROGテストによるPDCAサイクルを活用し、また超高齢社会への対応、問題解決能力の育成、学士力の担保など現代社会問題に対応できる教育カリキュラムの改変、PBLチュートリアルの実践及びトリプルジャンプ、パフォーマンス評価やポートフォリオ評価等の新たな学習評価方法の開発を行い、第II期より新歯学教育パイロットプログラムを試行する。第II期開始後も、第I期に実施するPROGテストで測定されるジェネリックスキル（汎用能力：コンピテンシーとリテラシー）に着目し、教育プログラムのブラッシュアップを進め、本事業終了後に、新教育プログラムに完全に移行する。PDCAサイクルを活用した教育の質保証、理論に裏付けられた教育プログラムの開発により、超高齢社会の中で良質な歯科医療・保健を国民に提供できる人材の育成が図られる。

## 総合研究棟（歯学系：歯学部校舎） 改修工事（第1期）の完了について

改修工事中、教職員、学生諸君には騒音等、ご迷惑をおかけしましたが、大型改修第1期工事（B'、C、D棟）は平成25年9月10日に完成しました。第1期工事では教員研究室、事務室、講堂、第1講義室の改修に加え、学生アメニティスペース（旧歯学部事務室）、第7講義室（旧口腔生命福祉学科教員室）が新設されました。

また、歯学部正面玄関の風除室の左右の壁面には歯学部と大学院医歯学総合研究科の英文プレートが、学部長室壁面には歯学科、口腔生命福祉学科の英文プレートが設置されました。歯学部正面玄関にも新潟大学歯学部の新たな看板が設置されました。（詳細は本号の特集を参照のこと）。

## 講堂、第1講義室の設備更新について

講堂の大型改修工事に伴い、シンポジウムや学会で使用することを念頭におき、設置されていた固定式机及び椅子はすべて撤去され、新たな什器類が設置されました。また、平成25年度学長裁量

経費の補助を受け、高解像度液晶プロジェクターを含む視聴覚設備の更新を行いました。

第1講義室の固定式講義机、椅子も新たなものに更新しました。



## 総合研究棟（歯学系：歯学部校舎）改修工事（第2期）の開始について

第1期大型改修に伴う移転作業終了後、歯学部校舎 A、B 棟の改修工事が始まりました（施工業者：大石組）。工事期間中は医歯学総合病院へ通路が閉鎖され、教職員、学生諸君にはご迷惑をおかけすると思いますが、ご配慮のほど、よろしくお願い致します。

第2期工事では A 棟に教員研究室、共通スペース、シミュレーション室が整備され、B 棟には学生技工室を含む臨床系基礎実習室が移転整備されるとともに、ポリクリでの使用を念頭に置いた新実習室（デンタルチェア10台設置）が新設され

ることとなっています。



## ミャンマー連邦共和国・ヤンゴン大学歯学部との部局間交流協定の締結について

ミャンマー連邦共和国は開放政策が進み、今後ますます、経済発展が見込まれ、外交上も重要な国となってきています。学生・教員交流さらには医療貢献を目指して、ヤンゴン大学歯学部と部局間協定締結に向けた協議を進めてきました。ミャンマー連邦共和国政府、ヤンゴン大学歯学部との合意ができ、11月27日に前田歯学部長、宮崎副歯学部長と事務職員1名がヤンゴン大学歯学部を訪問し、部局間交流協定を締結しました。



## 科学研究費助成事業における 審査委員の表彰について



日本学術振興会  
は科学研究費審査  
の検証結果に基づ  
き、第2段審査(合  
議審査)に有意義  
な審査意見を付し

た第1段審査(書面審査)委員を選考し表彰する  
こととしています。今年度は約5,300名の第1段審  
査(書面審査)委員の中から124名を選考し、前田  
健康歯学部長が10月31日付で表彰を受けました。  
([http://www.jspss.go.jp/j-grantsinaid/  
26\\_hyosho/index.html](http://www.jspss.go.jp/j-grantsinaid/26_hyosho/index.html))

## 学生との懇談会の開催について

12月5日の16:30から、学部長、学務委員長及  
び関係事務職員と歯学部学生との懇談会が開催さ  
れました。話題は「校舎改修中における学生から  
の要望について」で、学食・売店に関するものか  
ら、教育環境に関するものなど多岐にわたり、学

生用の掃除機、電気ポット、プリンター、電子レ  
ンジ等の設置、ゴミ箱の増設の希望が出されまし  
た。学部長からは「学生側から機器管理の具体的  
方策を受けて、学生の要望にできるだけ応えたい」  
との発言がありました。

## 平成26年度(独)日本学生支援機構(JASSO)海外留学支援制度(短期 受入れプログラム・短期派遣プログラム)の採択について

独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)が  
公募していた海外留学支援制度の採択結果が通知  
されました。この事業はこれまでショートステ  
イ・ショートビジット(SSSV)事業として展開  
されてきましたが、昨年度より、新たに海外留学  
生支援制度として発足したものです。歯学部から  
単独事業として2件、連携事業(新潟大、東北大、  
広島大)として1件応募し、短期受け入れ事業(短  
期研修・研究型)として「口腔保健・医療ニーズ  
に対応した国際医療人育成の更なる展開プログラ

ム」、短期派遣事業(短期研修・研究型)として「歯  
学部学生の世界ネットワーク形成支援によるグ  
ローバル人材育成プログラム」、「3大学歯学部協  
働によるグローバル人材育成プログラム」の3件  
が採択されました。

なお、昨年度から本事業による奨学金受給には  
各種制限が設けられており、特に成績不良の学生  
には奨学金を支給できないこととなりましたの  
で、短期留学希望者は成績向上に努めるよう願  
いします。

## 新潟市・新潟大学歯学部意見交換会の開催について

新潟市と歯学部の連携による社会貢献、教育研究臨床活動の一層の充実を目的に平成26年2月27日(木)17時から新潟市役所内で新潟市・歯学部との意見交換会を開催しました。新潟市と新潟大学は平成17年6月3日に包括連携協定を締結しており、歯学部として同協定に基づく具体的な連携事業等を行っていくための環境整備ともなります。

当初、参加予定であった篠田昭市長が急な公務のためご欠席となりましたが、新潟市からは山口英樹副市長をはじめ、仁多見浩理事、鈴木亨福祉部長、佐藤隆司保健衛生部長、岸洋志保健所副参事、清水洋福祉総務課長、中川高男健康増進課長など11名の方からご出席頂きました。

また、歯学部からは前田学部長、興地総括副病院長、小野副学部長、葭原口腔生命福祉学科長、高橋教授、大内教授、中川准教授、吉田事務室長

が参加しました。

意見交換に先立ち、大内教授から地域・行政との連携を中心としたこれまでの新潟大学歯学部の活動の概要について説明を行いました。続く意見交換では、新潟市が今後の最重点課題の一つとしている「地域包括ケア体制の構築」に対する歯科保健医療分野を含めた協力・支援を始めとして、新潟市の保健福祉関係職員のマンパワー確保・資質向上、住民主体の口腔保健活動の展開など、様々な視点から率直な意見交換が行われました。最後に山口副市長から、口腔の健康や食は市民の生命・生活の礎となるものであり、本日の意見交換で得た情報をもとに、新潟大学歯学部との連携協力のもと、積極的に取り組んでいきたい旨ご発言があり、引き続き、具体化に向けた協力を行っていくことを確認しました。

